

<新しいものへの挑戦>

日本経済新聞の静岡経済欄に「成長のキーマンあすも語る」が記載されています。

① 焼津水産化学工業「紅茶由来の機能性素材、テアフラビンの研究開発に取り組んだ。静岡県立大学や県工業技術研究所の協力を仰ぎながら抗ウイルス性や虫歯予防などの機能に関するデータを集め、品質管理の技術も磨いた。」② ジニアウライト「ある企業でレジャー関連の研究開発に取り組んでいた時に、光産業創成大を知った。ここで光について学びたいと思ったが、「入学するなら、会社を辞めなさい」と言われたので06年に退社し、入学後にジニアウライトを設立した。設立当初は骨を切断するレーザーを研究していた。その後ある医師から「簡単に生体内を計測できないか」と依頼されたのを機に、微弱光検出技術の開発に取り組むようになった。」③ エムスクエアラボ「主に県西部の約90の生産者の野菜も首都圏を中心にした約50の外食や小売り、総菜加工会社へ提供している。いい食材を使うことで買手側の売り上げが伸び、生産者への発注も増える好循環に入りつつある。鬼業ビジネスにおいて売り先の確保は最優先事項だ。買手がいつ、どんな野菜が欲しいかを把握し、生産者が提供できる量や納期、価格をマッチングする。」④ 東海部品工業「1947年の創業から自動車向けにネジを供給してきたが、海外生産が進み、下請けは厳しいと感じた。脱下請けを目指し、政府が示した成長産業の中にあつた医療分野に着目した。多くの医者から人体に使う4タン製のネジ(インプラント)を作れるかと言われた。成否は分からないが、先入観を持たずに挑戦した。」⑤ タジマモーターコーポレーション「約10億円を投じて2015年3月に『タジマ発井国際次世代自動車センター』を設けた。4万3000平方メートルの敷地は試走路も整備しており、EVの試作機や市販のカッソン車を電気自動車に転換する装置などの開発に社員約50人が取り組んでいる。『チーム遠州』で取り組む遠州地域をEV産業の集積地として世界に発信していく。」

新しいものへの挑戦。10年先を見据えて行動していく。

馬林幸治